

下水しよ理場はすい！

松藤 あみ

基山町立若基小学校

「二十一時間もかかるんだ。」

わたしたちが使つてよれた水をきれいな水にかえるのにかかる時間です。

宝満川浄化センターには、いろいろな所からよれた水がきています。宝満川浄化センターには、いろいろの所からよれた水がきています。だざいふ市、ちくぜん町、おごうり市。もちろん、わたしたちが住んでいる基山町からも流れてきています。

楽しみにしていた出前こうぎではわたしたちが使つた水が、どのくらいよれているか実験をしました。パックテストという薬品を入れてふると色でよれ具合がわかるという実験です。流入水は0〜10で色は赤色でした。つまり、流入水はしよ理水の二倍もよれていることとなります。こんなよれている水をきれいにしている所が下水しよ理場なのです。

牛乳でよれた水を魚が住めるくらいきれいにするには、約二千五百リットル（風呂おけ約10杯分）の水が必要だそうです。水をきれいにするには、時間がかかるだけではなく、多くの水が使われていることがわかりました。下水しよ理場では、どのようにして水をきれいにしているのでしょうか。水をきれいにするとときに活やくしているのが活せい君です。わたしが気に入った活せい君は、クマムシです。理由は形がアルマジロみたいだからです。それと、なんだか、おすしみた

いにも見えます。よこれを食べてしずんだ活せい君は、レンガの材料になるそうです。よれた水をきれいにするだけでなくレンガの材料にもへんしんするなんて、活せい君は働き者です。

下水しよ理場がなかった昔の町は、川や海、湖などがよれていて、たいへんだったんだらうなと思います。それだけではなく、大雨によるしん水もたくさんおこっていたと思うと、今の時代に生まれてよかつたなあと思います。だから、本当に下水しよ理場の方にかんしゃしています。だつて、二十一時間かけて、わたしたちがよした水をきれいな水にかえてくれているからです。下水しよ理場がなくなったら日本中の人、いや、世界中の人が困ってしまうと思います。

先生から「水道がない国では、ぼうの両はしにバケツのようなものをさげて水をくみにいつている子供がいます。」という話を聞きました。

その国では、水くみをしてから学校に行ったり、学校が終わってから水くみをしたりするそうです。その話を聞いて、そんな国があるんだなどびつくりしました。水道があつて、下水しよ理場もある日本は幸せな国だなと思います。

今回、水のことについて考えて、これからは水を大切にしていこうと強く思いました。出前こうぎで教えてもらった「排水管がつまるので油は流さない」、「排水管がいたむので熱いお湯は流さない」、「排水管がつまるのでかみの毛を流さない」、「排水管がつまるのでトイレトーパー以外の紙を流さない」という四つのことをしっかりと守っていきたいです。